

【目指す児童像】

やさしい子  
元気な子  
よく学ぶ子



ホームページ

はち まん

# 八幡の森

学校だより 第13号

令和6年1月24日

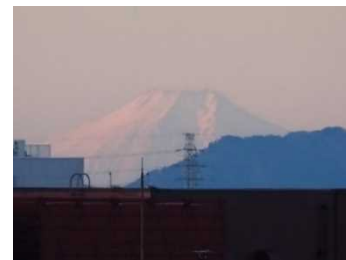
宇都宮市立昭和小学校

発行責任者 宮澤文洋

## 令和6年の幕開け

令和6年がスタートしました。保護者及び地域の皆様には、本年も子供たちが生き生きと学び逞しく成長していけるよう、引き続き、お力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は心穏やかに新年を迎えたのも束の間、元旦の午後には大きな地震が発生し、災害をもたらす形となってしまいました。亡くなられた方々への御冥福をお祈りし、負傷された方々、避難生活を余儀なくされている方々にお見舞い申し上げます。復旧までは時間がかかることが想定されます。我々は、このことを心に留め置き、日々の生活を送っていきたいと思います。子供たちには「つらい思いをしている人たちがいるということ」を心に留め、自分たちは日常を笑顔で過ごすことに心がけよう。」と年初めの集会で伝えました。また、「テレビニュースのながら見」などを通じて、気付かないうちに心に傷を負うことも想定されるため、発達の段階に合わせ大人が適切に対応することが大切です。【1月2日 本校屋上からの富士山 Web で御覧下さい。】



## 趣深いどんど焼きとなりました

1月13日（土）、昭和地区どんど焼きが開催されました。主催は、昭和地区子ども会育成会連絡協議会です。前日から荷物を運び入れ、当日は朝から本格準備をされていました。午前中からお昼過ぎの時間帯にかけて太陽が見えていましたが、その後、予報どおりに雪が降り始め、時間が経つにつれて雪の量も多くなりました。開催はどうなるのか。開始時刻が迫る中、何と、午後4時になると、雪が降りやみました。校庭には雪がまだ残る状態で昭和地区どんど焼きは予定どおりスタートできました。実に趣深いどんど焼きとなりました。お囃子会の皆さんも寒い中、景気よく演奏を続けてくださいました。このどんど焼きで、1年間の災いを払い、家内安全、無病息災、そして、子供たちの健やかな成長を願いました。昭和まつりに引き続いて、やはり昭和地区の大人は「本番に強い」ことが確実となりました。



さて、御案内のとおり、子ども会活動が活発になることは「地域で次代を担う子供を支え、育てる」機会が増えることでもあり、子供も大人も、皆が地域でつながります。そして、子供は、いろいろなタイプの大人に影響を受けながら成長していきます。とするならば、大人に励まされ、褒めてもらうことが大切であり、地域の良質な大人との出会いはとても重要となります。さらに、大人同士の関わりを見ながら、お互い様の人間関係を理解していくことにもつながります。「よい学校は、よい地域にしか存在しない」とも言われます。あらためて、昭和地区という良質な地域に感謝する次第です。



## 校長先生、ということ？

第2学期のテーマである「本番に強くなる」の具体策として、「練習は本番のつもりで 本番は練習のつもりで」取り組むことを伝え、児童昇降口に掲示しています。12月のある朝、低学年生から「校長先生、これはどういうことですか？」と質問がありました。そこで、年初めの集会で、6年生に2カ所の「つもりで」の続きの言葉を考えてもらうことにしました。早速回答があり、昇降口に掲示しました。

### 練習は本番のつもりで

- 全力で行う。
- 真剣に取り組む。
- 気持ちをひきしめて行う。
- 緊張感をもって行う。
- 本気で取り組む。

### 本番は練習のつもりで

- 落ち着いて行う。
- 気持ちを楽にして取り組む。
- あせらずにやる。
- リラックスして行う。
- 心を落ち着かせる。

本番に強くなる話題は、第9号でも御紹介しています。

これらの回答から、最上級生としての経験値、言葉の重みが伝わります。そして、1月に入って下校時、前述の児童が「校長先生、ということ？」と……。暫し2人で掲示を再読しながら「練習は真剣にやるでしょ、本番も練習のつもりだから、真剣にやるんじゃないの？」確におっしゃる通りなのです。本番を練習のつもりでリラックスするという事は、練習の時にリラックスしていることになるわけです。そのうち、2人で話がぐるぐる回って、まるで禅問答のようになってしまいました。「練習の質」と「本番の心のもちよう」ということが上手くお伝えできず、御迷惑をおかけしてしまいました。反省です。

## 褒めるシリーズ「間接的に褒める」

今回は、「間接的に褒める」です。まずは、担任の先生を通じて間接的に子供を褒めることです。授業に集中している時や、活動に乗っている時は、褒める声掛けで中断させてしまうので、その場で褒めることは難しくなります。そんな時は、職員室に戻って、メモに詳細と褒めてほしい旨を記し、担任のデスクに置いておきます。そして、児童に伝えてもらいます。行動と褒められることにタイムラグが生じてしまいますが、「そういう風に見てくれたんだ」とか「自分を見ていてくれた人がいたんだ」ということが伝わり、安心感をもつことができ、自分への自信につながると考えています。

さて、その逆。子供をとおして先生を褒めることです。私は、ネタバレ褒めと呼んでいます。主にグループ活動などの際に、自分たちで考えを出し合いながら、協力し、学習の効果を出している時に活用します。活動が一段落したところで、「みんなで意見を出し合っていて、やる気満々。すばらしいですね。ところで、君たちは何年何組？」本校の子供は素直なので、6年生でも「O組です！」と答えます。「そう、O年O組ですか。」さらに続けます。「そうすると、御指導くださった先生は誰でしたか？」「OO先生です！」「そうか、OO先生はすごい先生ですね。」「ありがとうございます！」担任が褒められても、子供がお礼を言うのです。担任が目の前にいてバレバレ状態でも、子供たちから「校長先生、OO先生なのは知ってるでしょ!？」とは言いません。寸劇のようですが、クラスと担任の名前を子供が言葉にすることが大切なのだと思います。そして、クラスがもっと好きになり、大人への信頼がさらに深くなると思うのです。「間接的に褒める」ことは、自己肯定感の高揚には直結しないかもしれませんが、「信頼を深める」ことに有効であると思っています。

## 令和6年能登半島地震義援金

昨年12月、保護者の皆様に募金の御協力をお願いしました。その際、3つの活動への支援を御案内しましたが、この度の令和6年能登半島地震の被害状況を鑑み、勝手ながら、義援金としての支援先を加えさせていただきたいと考えています。今回は、年末の募金であったことから、まだ振り込み等の作業は行っておりません。また、落合PTA会長様には御相談させていただき、御承諾をいただいているところでございます。金額等詳細につきましては、この後、書面にて御報告させていただきます。子供たちの教育に携わる昭和小PTAの心意気です。どうぞ御理解くださいますようお願いいたします。